

■ 一般目標 (GIO)

歯科衛生士として必要な要介護高齢者および有病高齢者に対する摂食機能療法の概念を理解するため、リハビリテーションの理念を理解し、摂食嚥下障害の診断法、アプローチ手技、および高齢者歯科医療に関する基本的な知識を身につける。また、これらの知識をもとに要介護高齢者および有病高齢者に対する接し方、また患者に関わる多職種への対応を理解する。

■ 到達目標 (SBOs)

- ・ 要介護高齢者および有病高齢者に対する摂食機能療法におけるリハビリテーションの理念を説明できる。
- ・ 摂食嚥下障害の診断法とその効用・短所を列記できる。
- ・ 摂食機能療法のアプローチ手技を列記できる。
- ・ 要介護高齢者と有病高齢者に対する口腔健康管理を説明できる。
- ・ 高齢者歯科医療に関する基本的な知識を説明できる。

■ 教科書：1 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版
2 歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第4版

■ 参考書：なし

■ 授業時間：後期 火曜日 9:00～9:50

■ オフィスアワー：米永一理 月曜日 12:00～13:00

■ 授業の方法：適宜スライドを使用し、プリントを配布する。

■ 準備学習・ 事前に指定された課題や教科書を読み、授業内容を理解して準備学習時間：おくこと。

各々授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

■ 成績評価方法：定期試験（100％）にて評価する。

■ 注意事項：学習成果を得るために、予習あるいは復習が重要である。教材として教科書および授業の際に配布される資料（プリント）を用いること。

■ 実務経験：米永一理：現在、日本大学歯学部摂食機能療法学講座に在籍している。摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究について、これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義を提供する。

阿部仁子：現在、日本大学歯学部摂食機能療法学講座に在籍している。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義を提供する。

中山潤利：現在、日本大学歯学部摂食機能療法学講座に在籍している。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義を提供する。

木村将典：現在、日本大学歯学部摂食機能療法学講座に在籍してい

る。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義を提供する。

大野慎也：現在、日本大学歯学部摂食機能療法学講座に在籍している。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義を提供する。

■ 予定表

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第1回 10月6日 米永 一理	1. リハビリテーション医学・高齢者歯科学総論 1) リハビリテーション医学の理念 2) 高齢者歯科医療の現場 3) 超高齢社会における歯科医療のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーション医学における障害の構造について理解する。 ・ リハビリテーション医学の理念を理解する。 ・ リハビリテーションに関わる職種、職能、多職種協働を知る。 ・ 超高齢社会における歯科医師の役割について理解する。 ・ 介護技術の概要を知る。
第2回 10月13日 木村 将典	2. 摂食嚥下の生理学 1) 摂食に関わる大脳皮質 2) 咀嚼、嚥下のメカニズム 3) 誤嚥の発症機転 4) 発声と構音	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行期（認知期）における摂食行為の多様性について学ぶ。 ・ 咀嚼、嚥下が起る生理学的なメカニズムを知る。 ・ 咀嚼、嚥下が起る生理学的なメカニズムを知る。 ・ 咀嚼、嚥下器官の神経学的正常と異常、加齢について学ぶ。 ・ 発声と構音機能の解剖と生理を知る。 ・ 構音障害の診査診断と対応を知る。
第3回 10月20日 中山 潤利	3. 成人期の摂食嚥下障害に関わる全身疾患 1) 摂食嚥下機能 2) 脳血管障害 3) 認知症 4) 神経・筋疾患 5) その他の疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床的摂食嚥下機能を理解する。 ・ 脳血管障害の病態を知る。 ・ パーキンソン病、認知症等の病態を知る。 ・ 異常疾患に特有な摂食機能障害の臨床的所見を知る。
第4回 10月27日 木村 将典	4. フレイルとオーラルフレイル 5. 口腔機能低下症	<ul style="list-style-type: none"> ・ フレイルとオーラルフレイルの概念と歯科的対応を知る。 ・ 口腔機能低下症の概念と歯科的対応を知る。 ・ 口腔機能低下症の機器を知る。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第5回 11月10日 大野 慎也	6. リハビリテーションの概念と摂食嚥下スクリーニング検査 1) 反復唾液嚥下テスト 2) 改訂水飲みテスト 3) フードテスト 4) 咳テスト 5) 頸部聴診法	<ul style="list-style-type: none"> • 摂食嚥下スクリーニング検査について理解する。
第6回 11月17日 中山 洸利	7. 摂食機能療法に関わる評価方法 1) 栄養アセスメント 2) ADL 8. サルコペニア 9. 廃用症候群	<ul style="list-style-type: none"> • 栄養状態のアセスメント方法について学ぶ。 • ADLに関わる評価方法を学ぶ。 • サルコペニア，廃用症候群の概念を理解する。
第7回 11月24日 大野 慎也	10. 摂食機能障害の確定診断 1) 嚥下造影検査 (VF) 2) 嚥下内視鏡検査 (VE)	<ul style="list-style-type: none"> • 嚥下造影検査の目的と適応について理解する。 • 嚥下造影検査の利点、欠点について理解する。 • 嚥下造影検査の診断方法を学ぶ。 • 嚥下内視鏡検査の目的と適応について理解する。 • 嚥下内視鏡検査の利点、欠点について理解する。 • 嚥下内視鏡検査の診断方法を学ぶ。
第8回 12月1日 阿部 仁子	11. 口腔機能の発達	<ul style="list-style-type: none"> • 口腔機能の発達について理解する。
第9回 12月8日 阿部 仁子	12. 小児の摂食機能障害 13. 口腔機能発達不全症	<ul style="list-style-type: none"> • 発達期の摂食機能障害への対応方法を知る。 • 口腔機能発達不全症について理解する。
第10回 12月15日 木村 将典	14. 治療的アプローチ 1) 間接訓練	<ul style="list-style-type: none"> • 治療的アプローチである間接訓練の考え方を理解する。 • 間接訓練の目的と手技を学ぶ。
第11回 12月22日 大野 慎也	15. 治療的アプローチと代償的アプローチ 1) 直接訓練	<ul style="list-style-type: none"> • 治療的アプローチである直接訓練の考え方を理解する。 • 代償的アプローチである PAP,

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
	2) 舌接触補助床 (PAP) 3) 軟口蓋挙上装置 (PLP)	PLP の目的と適応を学ぶ。
第 12 回 1 月 12 日 米永 一理	16. リスク管理 17. 食品・栄養管理 18. 病院・在宅での対応	<ul style="list-style-type: none"> • 予防的対応および緊急時対応を知る。 • 栄養管理の概要と嚥下調整食分類について知る。 • 地域包括ケアに関わる制度を知る • チーム医療、ミールラウンド、栄養サポートチームを知る。
第 13 回 1 月 19 日 大野 慎也	19. 要介護高齢者・有病高齢者に対する口腔健康管理 1) 口腔健康管理の概念 2) 口腔衛生管理に用いる器具・薬剤 3) 口腔衛生管理の手技 4) 口腔機能管理の手技	<ul style="list-style-type: none"> • 要介護高齢者，有病高齢者への対応方法を学ぶ。 • 口腔ケアの概念を理解する。 • 口腔ケアで用いる器具，薬剤を学ぶ。 • 口腔ケアの手技と注意点を学ぶ。
第 14 回 1 月 26 日 木村 将典	20. 訪問歯科診療 21. 病院歯科 22. まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 訪問歯科診療の様子や注意点を学ぶ • 総合病院における歯科医師、歯科衛生士の役割を学ぶ • 本分野における重要事項について再復習する。